

陸上競技場や補助競技場を活用した合宿誘致も検討していく。

**大 柴** できるだけ早く策定し、多くの県民に利用してもらうことが大切だと思うが、事業スケジュールはどのようにになっているのか。

## 09 | ドローンの活用について

**大 柴** 政府の「未来投資戦略2017」をはじめ、県でもドローンの活用を進めているが、県のドローンの活用実績はどうなっているのか。

**政策企画課長** これまで業者に委託し、観光PRのプロモーションビデオの撮影や富士山科学研究所での植生のモニタリング、富士山登山の安全確認、リニア見学センターなどでの撮影にドローンを活用している。

**大 柴** 石川県の日本航空学校を視察した際、鳥をドローンで追い払つており、その効果を感じた。県でも防災や測量、農業などで活用が期待されるが、一方で使い方によっては危険だと感じた。

現在、ドローンの免許制度はないが、安全な飛行にはルールを守る必要がある。ドローンを取り巻く現状を伺いたい。

**政策企画課長** 航空法の中でいくつか規制があり、150メートル以上の空域や人口集中地区、空港周辺では飛行が禁止されている。

また、目で見える範囲を超えた所での飛行や夜間飛行、人が大勢集まるイベントの上空飛行なども航空法と併せて国土交通省の許可が必要となる。

**大 柴** ドローンの技術講習は日本航空学校をはじめ、他の民間団体で行っているが、金額もまちまちであり、ある程度統一することが望まれるが、どのように考えているのか。

**政策企画課長** 技術講習を行う民間団体は国土交通省のホームページに掲載されており、統一的な基準はないが、習得できる技術項目が示され、安全飛行に対する研修が行われていると承知している。

**大 柴** 県民の安全・安心の向上や建設、農業分野での労働力不足に対してもドローンは有効だが、県の活用に向けた取り組みを伺いたい。

**政策企画課長** 5月から府内検討会を開設し、県内外の先進的事例などを参考に、県としての活用を検討していく。



## 平成29年12月定例総務委員会会議録要旨

### 10 | リニア中央新幹線の工事の進捗状況について

**大 柴** リニア中央新幹線の工事に関し、用地測量や物件調査などの縦越明許費がずれ込んでいるが、何故なのか。また、用地の取得現状はどうなっているのか。

**リニア交通局次長** JR東海が行う導水路の付け替え協議で、道路や河川の管理者、自治会などの意見を反映しながら行っているため、用地測量や物件調査業務で不測の日数を要している。現在、本線区間の約180人と交渉する予定となっている。

**大 柴** JR東海と県の役割分担はどうなっているのか。

**リニア交通局次長** 事業用地はJR東海が確定するため、JR東海が各地区への事業説明会や用地測量、物件調査を行い、県は地権者に対して補償内容の説明などを行う交渉業務を行っている。

償内容の説明などを行う交渉業務を行っている。

**大 柴** 県は縦越明許費を設定する経費内容を民間の補償コンサルタントに再委託するが、どのような考え方なのか。

**リニア交通局次長** JR東海との協定で平成33年度までに用地取得を完了しなければならず、迅速かつ円滑に用地取得を行うためにはノウハウを持った民間会社への再委託が必要となる。

**大 柴** 新聞報道などで大林組の事件が話題になっているが、県はどの程度把握し、スケジュールに遅れは生じないのか。

**リニア交通局次長** JR東海に説明を求めたところ、現状では報道範囲内でしか答えられないという回答であり、県はスケジュールに遅れないよう強く要望するとともに、事件についても再度、情報提供を求めていく。

### 写真で見る 大柴邦彦の 地域の 活動報告



### 写真で見る 大柴邦彦の 地域の 状況報告



県民の皆様と  
同じ夢を追い求めます



Ooshiba Kunihiko  
hokuto

山梨県議会議員

# 大柴邦彦 議会レポート

Vol.14  
2018年2月

発行元 大柴邦彦

Photo : 八ヶ岳

諸課題克服と地域活性化、  
改めて挑戦  
新時代に実現する  
好材料をフル活用へ



平成30年の新しい年を迎ました。

とりわけ、来年には“平成天皇”陛下の生前ご退位により、新たな元号による新しい時代がスタートすることになりました。県議会議員の私にとっても、残り1年余となった本年は、地域の活性化を目指して、さらなる取り組みに挑戦しなければという思いを強くしております。

平成の約30年間を振り返る時、様々な変化を痛感いたします。中でも私たちの暮らしてきた北巨摩郡は「平成の大合併」により、須玉、明野、高根、長坂、小淵沢、大泉、白州、武川の町村によって「北杜市」として生まれ変わりました。その変遷の中で、様々な課題も生まれ、とくに少子高齢化による人口減少問題は、山梨県全体の懸案にもなっています。日本全体としての課題解決への道は厳しいものとなっていますが、新しい時代には、本県ではリニア中央新幹線、中部横断自動車道の開通などが実現します。昨年末の民間調査の「住んでみたい地域」では北杜市が全国1位という報道もありました。本年もこれらの材料をもとに地域の活性化に向けての取り組みに挑戦していく決意です。皆さんからのご意見をお待ちしております。

山梨県議会議員  
大柴邦彦

〒408-0202 山梨県北杜市明野町小笠原3324  
TEL 0551-25-2560  
E-Mail: info@ooshiba-kunihiko.jp  
<http://ooshiba-kunihiko.net/>

大柴邦彦



# 平成29年3月予算特別委員会会議録要旨

## 01 | 八ヶ岳牧場甲州牛生産体制強化事業費について

**大柴** 甲州牛や甲州富士桜ボーグなどは県内の食卓を豊かに彩るとともに、全国にアピールできる県産ブランド品である。私の地元、北杜市は甲州牛の産地だが、需要に供給が追いついていない。

県立八ヶ岳牧場が実施している預託放牧に加え、ブランド牛の増産を可能にするには和牛子牛の育成施設の整備を進める必要があると思うが、牧場をどのように活用し、子牛不足を解消していくか伺いたい。

**農政部長** 甲州牛生産農家の高齢化、担い手不足に加え、子牛価格の高騰が経営を圧迫していることから、現在、需要に応えられる生産量を確保できていない状況となっている。

## 02 | やまなし燃料電池バー創出推進事業費について

**大柴** 燃料電池関連産業は今後、成長が期待できる産業分野だと思う。県は世界最先端の研究成果を有する山梨大学との連携や、県の工業技術センターに燃料電池の評価室を整備するなどの取り組みを進めているが、現状を伺いたい。

**産業労働部長** 県は燃料電池の試作を支援するとともに、今月上旬に開催された国際水素・燃料電池展で燃料電池を展示し、好評を得た。

また、山梨燃料電池産業化推進会議を設置し、大手燃料電池メーカーと県内中小企業との商談会を実施している。やまなし燃料電池バー創出推進事業では明年度も、燃料電池関連製品の設計開発技術者の養成講座を開設するとともに、本県のこれまでの取り組み成果を国内外に発信するため、国際水素・燃料電池展への出展を行っていく。

## 03 | 商工業振興資金貸付金について

**大柴** 中小企業や小規模企業者は本県の経済と雇用を支え、地域社会の発展に寄与する重要な存在であり、県も中小企業や小規模企業者に向けた低利率で利便性の高い商工業振興資金で支援してきた。

今回、振興資金の利率を一律引き下げるが、中小企業や小規模企業者に対して、その効果をどのように見込んでいるのか伺いたい。

**産業労働部長** 商工業振興資金の利率は県内の経済情勢あるいは市中金利などを勘案して定めており、県内金融機関の貸出金利の低下が続いていることや日銀のマイナス金利を踏まえ、利率を一律0.2%引き下げて利便性を図った。

これにより、民間金融機関から資金調達が難しい小規模企業のニーズに

## 04 | 國際観光トップセールス事業費について

**大柴** 海外からの誘客促進を図るために、明年度、台湾、ベトナムでトップセールスを行う予定だと聞いているが、対象国として選定した台湾とベトナムについて、本県への観光客の入り込み状況はどうなっているのか伺いたい。

**観光部長** 国の宿泊旅行統計調査によると、昨年1年間の県内での宿泊者数は、台湾が対前年比1.1%増の15万7,230人で国別で2位、また、ベトナムが対前年比54.7%増の2万5,580人で国別で9位となっている。

**大柴** 台湾と昨年の経済成長率で6.68%の伸びを示しているベトナムで、それぞれの国どのような所に焦点を当ててセールス活動を行っていくのか伺いたい。

**観光部長** 台湾は個人旅行を中心にリピーターが多く、山梨県観光物産



県は和牛子牛の増産のため、八ヶ岳牧場の県有牛を用いて作成した和牛受精卵を酪農家から預託された乳用牛に移植して増産を目指しており、施設整備も進めている。

今後は甲州牛生産農家やJAなどの地域の畜産関係者で構成する甲州牛生産推進クラスター協議会が行う牛舎整備を支援するとともに、担い手確保のための研修や甲州牛の認定率向上に向けた肥育技術の指導などを行う。



**大柴** 事業の実施により、今後、県内企業への参入促進や燃料電池関連産業の育成を図っていくのか伺いたい。

**産業労働部長** 県は工業技術センターの燃料電池評価室、山梨大学の燃料電池ナノ材料研究センターおよびHySUTの水素技術センターとの連携を強化し、幅広い技術的な支援を行うとともに、山梨燃料電池産業化推進会議を活用して県内企業のビジネスチャンスの拡大につなげたい。

さらに、明年度策定する水素エネルギー社会の実現に向けたロードマップの中で、関連産業の集積と育成を図っていく方策を示していくたい。

※HySUT …一般社団法人水素供給利用技術協会

応えるセーフティーネットとしての役割が強化されるものと考えている。また、設備の導入や従業員の雇用増を図るための資金調達を必要とする場合や起業・創業、県内中小企業が新分野に進出するきっかけにもなると考えている。

**大柴** 現在、全国各地で特徴を生かした施策が進み、本県でも産業振興の観点から、企業立地が本県発展の重要な課題となっている。

今回、見直しを行う企業立地促進融資は、企業への後押しになると思うが、内容について伺いたい。

**産業労働部長** 全国トップレベルの0.7%に利率を引き下げ、さらに融資枠を10億円に拡大するなど、企業の資金調達を支援する。

これに加え、産業集積促進助成金の拡充や本社機能の移転などに対する優遇税制で企業誘致を推進していく。



展を開催して本県の観光資源の魅力を紹介するとともに、台湾で人気の体験型の旅行を企画してPRする。

また、友好交流に積極的な高雄市、台南市などの台湾南部の自治体を訪問し、本県への教育旅行を促す。ベトナムについては初来日の旅行者の割合が高く、団体旅行客を中心に富士山を含むゴールデンルートをPRして誘客を図るとともに、メディアや旅行会社、輸入業者などを対象としたやまなし魅力説明会の開催や旅行会社を訪問してセールス活動を行う。

**大柴** 私の地元の北杜市には歴史ある酒蔵が数多くあり、観光客受け

入れにも積極的に力を入れている。ベトナムでは日本酒が人気となっていると聞くが、日本酒をテーマとした誘客についてどのように取り組んでいくのか伺いたい。

## 05 | やまびこ支援学校建設事業費について

**大柴** 知事は所信表明で、やまびこ支援学校を大月市の猿橋町桂台地区に移転・整備すると表明したが、現状はどうなっているのか伺いたい。

また、過日、行われた桂台地区のアンケート調査で移転に反対している住民もいるとのことだが、調査内容と結果はどうだったのか伺いたい。

**教育長** 同校は開校以来37年が経過し、施設・設備が老朽化するとともに、児童生徒数の増加に伴い、教室も不足している。敷地内は高低差があり、肢体不自由の児童生徒や補助する教職員にとって大きな負担となっている。

大月市は新たな都市計画マスター・プランを策定するためにアンケート調査を実施したが、猿橋町桂台地区についてはやまびこ支援学校や福祉施設などの誘致に対し、「来てほしい」、「なるべく来てほしい」が36%、「来てほしくない」「なるべく来てほしくない」が35%、残りの29%が「わからない」または無回答だった。



**観光部長** やまなし魅力説明会で、現地の旅行会社などに対して本県が日本屈指の水の聖地であり、優れた日本酒の产地であることを実際に試飲してもらなながら、アピールしていく。

**大柴** 先日、保護者有志が大月市や大月市議会に對し、計画が当初の通りに進むように陳情したとも聞いています。

桂台地区はJR猿橋駅から大分高台にあるが、保護者は移転をどのように考え、また、地元住民はどのように思っているのか伺いたい。

**教育長** 平成27年に同校のPTAから県教委に對し、移転先候補地の要望書が提出され、桂台地区は移転先の条件を全て満たしているため、PTAには賛成いただいている。

また、昨年12月と本年1月に開催した住民説明会や現在の同校の見学会に合わせて約70名の住民が参加したが、移転反対の意見はなかった。



# 平成29年6月定例総務委員会会議録要旨

## 06 | 自発光式の横断歩道の路側標識について

**大柴** 昨年の交通事故で、横断歩道を渡らなかつたために事故に巻き込まれてしまった件数が33件あり、そのうち2件が死亡事故となった。

事故防止に大いに役立つののが標識で、歩行者も運転者も夜間、電光の横断歩道標識があれば事故が減少すると思う。標識により「横断歩道がここにあるんだよ」ということが分かれば、お年寄りの方も横断歩道まで歩いて行くのではないか。

新聞報道で現在、3本設置されていると聞いているが、本年度は何力所に何本設置するのか伺いたい。

**交通規制課長** 新たに導入を予定しているのが、ソーラー充電方式による自発光式の横断歩道標識で点灯、点滅、減灯の3パターンを設定場所の環境に応じて設定できる。車の運転者に對しては横断歩道の存在を早期に注意喚起でき、歩行者に對しては横断歩道以外の場所での乱横断を防止できる。

本年度は3カ所に6本程度を整備予定で、特に夜間の車両交通量や横断歩行者の多い場所を選定し、概ね8月中を目途に設置する。

県警察としても、夜間の横断歩行中の交通事故防止を図る上で標識は極めて有効な手段の一つだと考えており、今後は夜間の車両の交通量や横断歩行者数、交通事故の件数などを勘案し、設置の必要性、適切性などを検討した上で必要な箇所に整備を進めたいと考えている。

消防団員に占める県職員の割合は、昨年度は全国トップレベルである。

**大柴** 機能別消防団員制度の活用という言葉を聞くが、どのようなものか。

**消防保安課長** 特定の役割に限り、時間の許す範囲で消防団活動に参加できるように設けられた制度で火災予防の広報、火災警報器設置促進のための各戸への訪問、防災訓練などでの応急手当で講習の実施、出初め式などの消防団行事での司会や広報などがある。女性や若者などの加入促進活動にもこの制度を役立てたいと考えている。

消防団は地域防災力の維持向上のために重要であり、消防団活動の活性化を図るために、今後も市町村と連携し、あらゆる取り組みを通じて女性や若者をはじめとした幅広い層が消防団に加入しやすい環境を整備し、消防団員の確保に努めたい。



# 平成29年9月定例総務委員会会議録要旨

## 08 | 総合球技場基本計画策定費について

**大柴** 総合球技場基本計画は有識者による委員会を設置し、基本計画を作成しているが、小瀬スポーツ公園の総合球技場にふさわしい附帯施設についてどのように考えているのか。

また、子供からお年寄りまで誰もが利用できる球技場に向けた方向性について伺いたい。

**リニア環境未来都市推進室長** 地域の活性化や収益性向上のための機能を付加し、運用につなげることが必要である。総合球技場をはじめ、会議室や飲食・物販施設、また、主要防災活動拠点としての機能を補完的に担えるよう、検討委員会で検討していただきたい。

総合球技場を最大限に有効活用するため、全国トップレベルの球技が観戦できる施設はもとより、アマチュアの大会や各種イベントでの活用、